

# ～事業系食品ロスへの理解を深める起業プロジェクト～



## 背景・目的・設定理由・SDGsとの関連

近年国内外問わず問題となっている「事業系食品ロス」。消費者庁の調べでは10代後半の食品ロス問題への認知度は年代別に見ると1番低く、約78%。この統計をもとに私たちは同年代の事業系食品ロスへの認知度を高めることを目的とし、事業系食品ロスについて政策を取られている企業様と共に高校生が取り組めそうな事業系食品ロス削減の為に起業プロジェクトを作成したいと考えた。そこで私たちはSDGsの内、「2.飢餓をゼロに」と関連して、そのような取り組みを行うために自分たちにどんなことができるのか考え、実践するための具体的な事業計画を作成した。

## 目標・評価基準

当事業では「高校生の事業系食品ロスへの認知度向上の方法を考えること」を目標とし、6～7月に事業の決定、8～11月に情報収集や具体的な事業計画の内容作成、12月以降に目標達成に向けての取り組みを実施した。

### 評価基準①

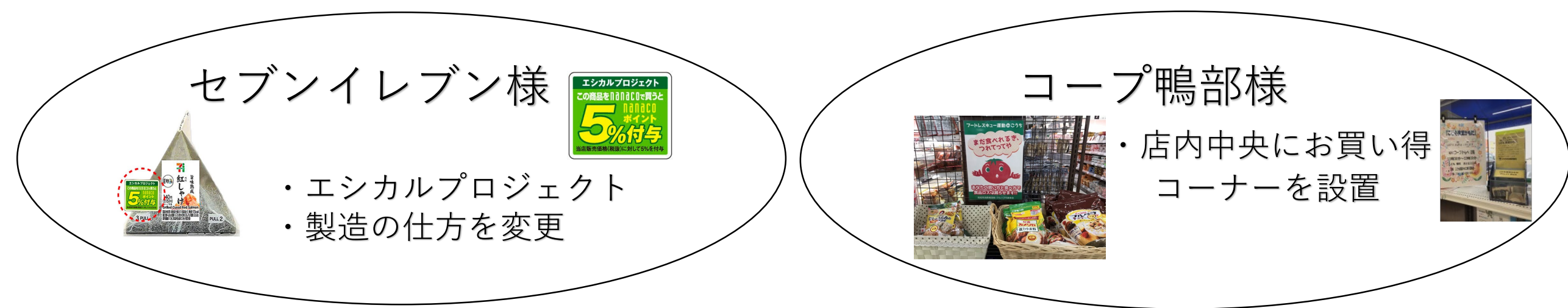
- 0) 以下に示す基準に達していない。
- 1) 事業系食品ロスについて知ることができなかった。
- 2) 今事業を行うために必要な最低限の知識をネットで調べ、理解した。
- 3) ネット上の情報だけでなく書籍も読んでみた。
- 4) 実際に詳しい方にお話を聞くなどして事業系食品ロスについて詳しく知ることができた。

### 評価基準②

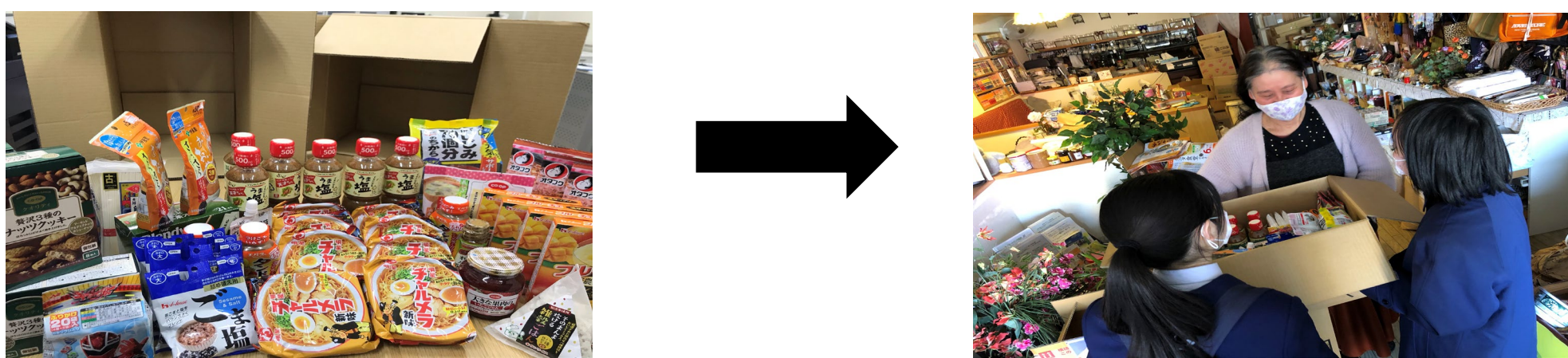
- 0) 以下に示す基準に達していない。
- 1) 何にも取り組むことができなかった。
- 2) 情報収集をするだけで終わってしまった。
- 3) 事業計画書を完成させることができた。
- 4) 自分たちにどんなことができるか考えることができた。

## 実施内容

- ・事業系食品ロスについてフードバンク高知様にお話をお伺いする
- ・企業様に事業系食品ロスへの取り組みをお伺いする



- ・コープ鴨部様より当事業のためにご提供して頂いた廃棄寸前の食品をフードバンク高知様に有効的に活用して頂いた



## 成果・まとめ

### 成果

本プロジェクトでは近年世界的にも問題となっているフードロスの内、「事業系食品ロス」に着目し、実際に問題解決に向けて取り組みを行なっている方達からお話を伺うことでより明確に現状を把握することができたと共に、私たちにでも実現可能な事業計画書を制作することができたため評価基準①は4)を達成できたと思う。また、今後目標を達成するための活動を実施することができれば評価基準②も4)を達成できると思う。

### まとめ

以上の実施計画を実行することで、事業系食品ロスについて知って頂くためのイベントを実施し、尚且つ多くの高校生に事業系食品ロスについて知って頂けると思う。私たち自身も、取り組みを行うことで事業系食品ロスは企業側の問題だけでなく消費者である私たちの日々の選択(買い物)と深い関わりがあると知ることができた。

## 私たちが取り組みたいこと・今後の課題と展望

### 私たちが取り組みたいこと

- ・企業様からお伺いした事業系食品ロスへの取り組みをチラシなどにまとめ、校内で配布する。
- ・高校生を対象とした事業系食品ロスを知って頂くためのイベントを実施する。

### 今後の課題

- ①当事業の需要は本当にあるのか?
- ②当事業を持続するための方法は?

### 今後の行動

- ①インタビューを行う
- ②事業計画書の見直しを行う

### 展望

最初のターゲット

将来的なターゲット

本校の生徒  
↓  
県下の高校生  
↓  
全国の高校生

みんなでチャレンジ!

減らそうフードロス

来て下さった方に提供していただいた食品を持って帰って頂く

当事業にご協力頂ける企業様

廃棄寸前の食品を無償で提供して頂く

提供していただきたい食品  
青果、お菓子、缶詰め等

企業様の利益も考えること

・事業系食品ロスへの自分達の学びなどをまとめたポスターを設置

・募金箱を設置し子ども食堂への寄付を募る

## ご協力くださった企業様 (あいうえお順)

株式会社セブンイレブン・ジャパン様、こうち生活協同組合、コープかもべ様、サンプラザ新鮮館鴨部様、フードバンク高知 (あいあいネット) 様

## 参考文献

消費者庁 食品ロスとは [https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_research/white\\_paper/2020/white\\_paper\\_131.html](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/2020/white_paper_131.html)